

「空輸対応型低圧応急用電源車」の概要について

1. 導入車両

「空輸対応型低圧応急用電源車」

〔愛称〕

灯(ToMoS)

〔語源〕

Tohoku(東北)

Mobile(機動的)

Speedy(早い)

2. 配備箇所

長岡営業所 1台 (平成26年7月導入)、仙台南営業所 1台 (平成26年9月導入)

3. 車両・発電機仕様

- 車両仕様 : ガソリン660cc, 5MT, 4WD, 乗車定員2名
- 発電機出力 : 単相3線式100V/200V, 13kVA / 15kVA (50Hz / 60Hz)
- 発電機重量 : 492kg (燃料満タン) 燃料 : 軽油 (40リットルタンク)
- 燃料消費量 : 75%負荷 (燃料満タン) で約10時間連続運転可能

4. 車両・CH47 外観および電源確保方法



〔電源確保方法〕

- ① 低圧配電線への接続
- ② 電力量計への接続
- ③ 付属の仮設コンセント盤
(コンセント×8口:合計容量80Aまで)

5. 期待される効果について

○災害復旧における活用

これまで孤立地区への応急送電は寸断道路の復旧後に実施していたが、CH47内部に積載し空輸することで孤立地区や離島へより安全で機動的な応急送電が可能となり、復旧完了時間の短縮が期待される。

以上